

貯 法：室温保存
使用期限：外箱等に表示の使用期限内に使用すること
規制区分：劇薬、処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）

承認番号	22400AMX00982000
薬価収載	2012年12月
販売開始	2012年12月

アロマターゼ阻害剤／閉経後乳癌治療剤

アナストロゾール錠 1 mg 「日医工」

Anastrozole

アナストロゾール錠

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

1. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔動物実験（ラット）で胎児の発育遅延が認められている。また、動物実験（ラット及びウサギ）で胎児への移行が認められている。〕（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）
2. 授乳婦〔本剤の授乳中婦人における使用経験はない。〕（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）
3. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

販売名	アナストロゾール錠 1 mg 「日医工」	
剤形・色調	白色のフィルムコーティング錠	
有効成分の名称	アナストロゾール	
含量（1錠中）	1 mg	
添加物	乳糖、デンプン、グリコール酸ナトリウム、ポビドン、ステアリン酸マグネシウム、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、マクロゴール、酸化チタン、タルク	
外形	表面	 質量：103mg
	裏面	 直径：6.1mm
	側面	 厚さ：3.2mm
本体コード	n 223 1	
包装コード	Ⓜ223	

【効能・効果】

閉経後乳癌

【用法・用量】

通常、成人にはアナストロゾールとして1 mgを1日1回、経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

重度の肝・腎障害のある患者〔本剤の重度の肝・腎障害患者における安全性は確立していない。〕

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤の特性ならびに使用経験がないことを考慮して閉経前患者への使用は避けること。
- (2) 本剤は内分泌療法剤であり、がんに対する薬物療法について十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤による治療が適切と判断される患者についてのみ使用すること。
- (3) 本剤の投与によって、骨粗鬆症、骨折が起こりやすくなるので、骨密度等の骨状態を定期的に観察することが望ましい。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用（頻度不明）

1) 皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）

皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) アナフィラキシー、血管浮腫、蕁麻疹

アナフィラキシー、血管浮腫、蕁麻疹等の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) 肝機能障害、黄疸

AST (GOT)、ALT (GPT)、Al-P、 γ -GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、定期的な肝機能検査を行うなど、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4) 間質性肺炎

間質性肺炎があらわれることがあるので、咳嗽、呼吸困難、発熱等の臨床症状を十分に観察し、異常が認められた場合には、胸部X線、胸部CT等の検査を実施すること。間質性肺炎が疑われた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

5) 血栓塞栓症

深部静脈血栓症、肺塞栓症等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
全身	ほてり、頭痛、倦怠感、無力症、疲労
肝臓	肝機能検査値異常（AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、Al-P上昇、 γ -GTP上昇、ビリルビン上昇）
消化器	嘔気、食欲不振、嘔吐、下痢
* 精神神経系	感覚異常（錯感覚、味覚異常を含む）、傾眠、手根管症候群
皮膚	脱毛、発疹、皮膚血管炎、IgA血管炎
* 筋・骨格系	関節痛、硬直、骨折、関節炎、骨粗鬆症、骨痛、弾発指、筋肉痛
生殖器	性器出血 ^{注)} 、膣乾燥
血液	白血球減少、好中球減少
* その他	高コレステロール血症、高カルシウム血症

注) 性器出血が認められた場合には直ちに検査を行うなど適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

アナストロゾール製剤の臨床試験成績では、高齢者と非高齢者において血漿中濃度及び副作用の発現率並びにその程度に差は見られていないと報告されている。しかし、一般に高齢者では生理機能が低下しており、副作用があらわれやすいので慎重に投与すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

本剤は、閉経後患者を対象とするものであることから、妊婦、授乳婦に対する投与は想定していないが、妊婦、授乳婦への投与の安全性については次の知見がある。

(1) 妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。[動物実験(ラット)で胎児の発育遅延が認められている。また、動物実験(ラット及びウサギ)で胎児への移行が認められている。]

(2) 授乳婦への投与に関する安全性は確立していない。[本剤の授乳中婦人における使用経験はない。]

6. 過量投与

アナストロゾール60mgを単回投与した臨床試験においても、忍容性は良好であったとの報告がある。過量投与には以下の処置を考慮すること。

処置

アナストロゾールの過量投与に特異的な解毒薬はないため、対症療法を行うこと。過量投与時の処置においては、複数の薬剤を服用していた可能性を考慮すること。患者の意識がある場合は、嘔吐を誘発してもよい。アナストロゾールの蛋白結合率は高くはないので、透析も有用と考えられる。バイタルサインの頻繁なモニタリングや患者を注意深く観察すること。

7. 適用上の注意

薬剤交付時

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

8. その他の注意

(1) 本剤との関連性は明確ではないが、アナストロゾール製剤の臨床試験において無力症や傾眠等が報告されているので、自動車の運転や機械の操作には注意すること。

(2) ラット2年間がん原性試験において高用量(25mg/kg/日)のみで雌の肝臓腫瘍及び雄の甲状腺腫瘍増加が認められたとの報告がある。この変化はヒトへの治療用量投与時の曝露の雄で約80倍以上、雌で約90倍以上の時にのみ増加することから、患者への本剤投与時の臨床的安全性との関連性は低いと考えられる。マウス2年間がん原性試験では良性卵巣腫瘍の増加が認められたとの報告がある。この変化はアロマターゼ阻害によるマウスに特異的な変化であると考えられ患者への本剤投与時の臨床的安全性との関連性は低いと考えられる。

(3) ラット及びウサギを用いた生殖発生毒性試験において、アナストロゾールの薬理作用に起因すると考えられる着床数、妊娠率及び出生児数の低下、胎盤の肥大等が認められている。

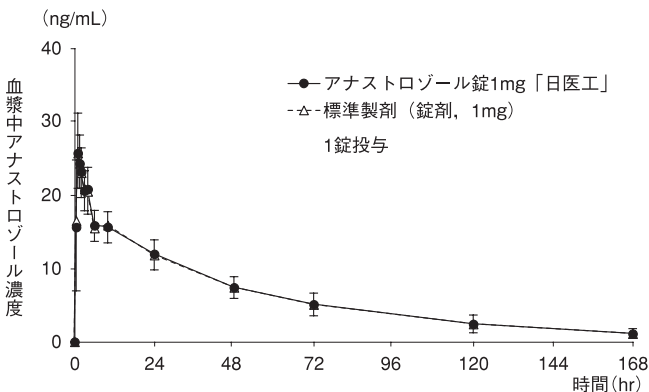
【薬物動態】

生物学的同等性試験

アナストロゾール錠1mg「日医工」及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(アナストロゾールとして1mg)閉経後健康成人女性に絶食単回経口投与して血漿中アナストロゾール濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC, Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。¹⁾

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→168} (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
アナストロゾール錠1mg「日医工」	1022.45 ± 216.18	26.7250 ± 4.1301	1.15 ± 0.37	41.98 ± 10.30
標準製剤(錠剤, 1mg)	1019.88 ± 219.68	26.6300 ± 4.0329	1.08 ± 0.29	42.30 ± 10.10

(1錠投与, Mean ± S.D., n = 20)



血漿中濃度並びにAUC, Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

【薬効薬理】

アナストロゾールは強力な選択的トリアゾールAI (Aromatase Inhibitor) である。

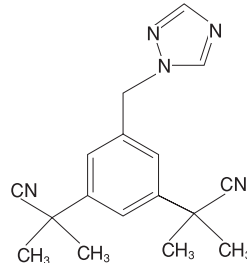
レトロゾールと同様、CYP19のヘムに競合的、特異的に結合する。アナストロゾールを1日1回、28日連続して投与すると、全身のアンドロゲンの芳香族化は、用量1mgでは96.7%減少する。加えてアナストロゾールは、大きなER (エストロゲンレセプター) 陽性腫瘍において、局所の芳香族化反応を抑制する。²⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名: アナストロゾール (Anastrozole)

化学名: 2-[3-(1-Cyano-1-methylethyl)-5-(1*H*-1,2,4-triazol-1-ylmethyl)phenyl]-2-methylpropanenitrile

構造式:



分子式: C₁₇H₁₉N₅

分子量: 293.37

性状: 白色の粉末である。

アセトニトリルに極めて溶けやすく、メタノール又はエタノール(99.5)に溶けやすく、水に極めて溶けにくい。

融点: 約84℃

【取扱い上の注意】

安定性試験

本品につき加速試験(40℃, 相対湿度75%, 6ヵ月)を行った結果、アナストロゾール錠1mg「日医工」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。³⁾

【包装】

アナストロゾール錠1mg「日医工」

30錠(10錠×3; PTP)

100錠(10錠×10; PTP)

【主要文献】

- 1) 日医工株式会社 社内資料: 生物学的同等性試験
- 2) グッドマン・ギルマン薬理書(下) 薬物治療の基礎と臨床 第12版 2290, 廣川書店, 2013
- 3) 日医工株式会社 社内資料: 安定性試験

【文献請求先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。

日医工株式会社 お客様サポートセンター

〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21

☎(0120) 517-215

Fax (076) 442-8948